

令和5年度上期放射線管理等報告書

北電原第222号
令和5年11月13日

原子力規制委員会 殿

住所 北海道札幌市中央区大通東1丁目2番地
氏名 北海道電力株式会社
代表取締役 社長執行役員 齋藤 晋

核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第67条第1項及び実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則第136条第1項の規定により次のとおり報告します。

工場又は事業所	名称	北海道電力株式会社 泊発電所
	所在地	北海道古宇郡泊村大字堀株村字山ノ上 219番地 1

1 放射性廃棄物の廃棄の状況

(1) 気体状の放射性廃棄物に含まれる放射性物質の放出量及び濃度

① 放射性物質の種類別の年間放出量

* 上期報告対象外

② 放射性物質の濃度の3月間についての平均値及び最高値

(単位：Bq/cm³)

測定の箇所		前半の3月間 (4月～6月)		後半の3月間 (7月～9月)		
		平均値	最高値	平均値	最高値	
排気口又は排気監視設備	1号炉 主排気監視設備	ND	ND	ND	ND	※2
	1号炉 非常用排気監視設備	ND	ND	ND	ND	※2
	2号炉 主排気監視設備	ND	ND	ND	ND	※2
	2号炉 非常用排気監視設備	ND	ND	ND	ND	※2
	3号炉 排気監視設備	ND	ND	ND	ND	※2
	焼却炉 排気監視設備	ND	ND	ND	ND	※3
	廃棄物処理建屋 排気監視設備	ND	ND	ND	ND	※3

※1 放出放射能濃度が検出限界未満の場合はNDと表示。

※2 主排気監視設備、非常用排気監視設備及び排気監視設備における濃度は、希ガス濃度である。
なお、主排気監視設備、非常用排気監視設備及び排気監視設備における濃度の検出限界値は、 2×10^{-2} (Bq/cm³) 以下である。

※3 焼却炉排気監視設備及び廃棄物処理建屋排気監視設備における濃度は、粒子状放射性物質濃度である。

なお、焼却炉排気監視設備及び廃棄物処理建屋排気監視設備における濃度の検出限界値は、 4×10^{-9} (Bq/cm³) 以下(⁶⁰Co で代表)である。

(2) 液体状の放射性廃棄物に含まれる放射性物質の放出量及び濃度

① 放射性物質の種類別の年間放出量

* 上期報告対象外

② 放射性物質の濃度の3月間についての平均値及び最高値

(単位：Bq/cm³)

測定の箇所		濃度※1	前半の3月間 (4月～6月)		後半の3月間 (7月～9月)		
			平均値	最高値	平均値	最高値	
排水口又は 排水監視設備	1,2号炉排水口		ND	ND	ND	ND	※2 ※3
	3号炉排水口		放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	※2 ※3

※1 放出放射能濃度が検出限界未満の場合はNDと表示。

※2 3号炉放水ピット溢水対策工事に伴い、3号炉の放射性液体廃棄物を1,2号炉排水口から放出しており、3号炉排水口からの放出実績はない。

1,2号炉排水口における号炉毎の内訳は、1,2号炉の放射性液体廃棄物の放出による濃度はNDであり、3号炉の放射性液体廃棄物の放出による濃度はNDである。

※3 排水口における濃度は、³Hを除く値である。

なお、排水口における濃度の検出限界値に相当する濃度（⁶⁰Coで代表）は、

前半の3月間平均で1,2号炉排水口 9.5×10⁻⁸ (Bq/cm³) 以下、

3号炉排水口 放出実績なし、

後半の3月間平均で1,2号炉排水口 9.6×10⁻⁸ (Bq/cm³) 以下、

3号炉排水口 放出実績なし である。

但し、³Hの平均排水口濃度（2次系³Hは放出実績なし）は、

前半の3月間平均で1,2号炉排水口 1.3×10⁻⁵ (Bq/cm³)、

3号炉排水口 放出実績なし、

後半の3月間平均で1,2号炉排水口 2.4×10⁻⁵ (Bq/cm³)、

3号炉排水口 放出実績なし である。

(3) 固体状の放射性廃棄物の保管量等

① 固体廃棄物貯蔵庫内の保管量等

* 上期報告対象外

② その他の設備内の保管量等

* 上期報告対象外

③ 廃棄物埋施設への年間搬出量

* 上期報告対象外

2 使用済燃料の貯蔵量等

* 上期報告対象外

3 放射線業務従事者の線量分布

(1) 放射線業務従事者の1年間の線量分布

* 上期報告対象外

(2) 女子(妊娠不能と診断された者及び妊娠の意思のない旨を発電用原子炉設置者に書面で申し出た者を除く。)の放射線業務従事者の3月間の線量分布

放射線 業務従事者		線量分布 (人)					
		0.1mSv 以下	0.1mSv を超え 1mSv 以下	1mSv を超え 2mSv 以下	2mSv を超え 5mSv 以下	5mSv を 超えるもの	合計
前半の 3月間 (4月～6月)	職員	8	0	0	0	0	8
	その他	—	—	—	—	—	—
	合計	8	0	0	0	0	8
後半の 3月間 (7月～9月)	職員	9	0	0	0	0	9
	その他	1	0	0	0	0	1
	合計	10	0	0	0	0	10

(続き)

放射線 業務従事者		線量		
		総線量 (人・Sv)	平均線量 (mSv)	最大線量 (mSv)
前半の 3月間 (4月～6月)	職員	X	X	X
	その他	—	—	—
	合計	X	X	
後半の 3月間 (7月～9月)	職員	X	X	X
	その他	X	X	X
	合計	X	X	

4 一般公衆の実効線量の評価

(1) 気体状の放射性廃棄物による実効線量

* 上期報告対象外

(2) 液体状の放射性廃棄物による実効線量

* 上期報告対象外

5 運転時間及び熱出力

[発電用原子炉の名称：泊発電所 1号炉]

項目 月別	運転時間 (h)	熱出力	
		平均 (kW)	最大 (kW)
4月	0	0	0
5月	0	0	0
6月	0	0	0
7月	0	0	0
8月	0	0	0
9月	0	0	0
合計	0	0	0

[発電用原子炉の名称：泊発電所 2号炉]

項目 月別	運転時間 (h)	熱出力	
		平均 (kW)	最大 (kW)
4月	0	0	0
5月	0	0	0
6月	0	0	0
7月	0	0	0
8月	0	0	0
9月	0	0	0
合計	0	0	0

[発電用原子炉の名称：泊発電所 3号炉]

項目 月別	運転時間 (h)	熱出力	
		平均 (kW)	最大 (kW)
4月	0	0	0
5月	0	0	0
6月	0	0	0
7月	0	0	0
8月	0	0	0
9月	0	0	0
合計	0	0	0

(参考資料)

- 排気口から放出される放射性物質（希ガス）は、評価地点までの希釈を考慮した上で「核原料物質又は核燃料物質の製錬の事業に関する規則等の規定に基づく線量限度等を定める告示（平成 27 年原子力規制委員会告示第 8 号）」の別表第 1 の第 5 欄に掲げる周辺監視区域外の濃度限度の適用を受ける。このため、周辺監視区域外の濃度については排気口出口濃度より計算して求める。
- 排気口出口濃度より計算で求めた陸側の周辺監視区域外の空气中放射性物質濃度を参考として以下に示す。気象条件は標準気象を用いた。

最大濃度地点における地上濃度	前半の 3 月間平均値 (4 月～6 月) (Bq/cm ³)	後半の 3 月間平均値 (7 月～9 月) (Bq/cm ³)
	—	—

- 排水口から放出される放射性物質（³H を除く）は、「核原料物質又は核燃料物質の製錬の事業に関する規則等の規定に基づく線量限度等を定める告示（平成 27 年原子力規制委員会告示第 8 号）」の別表第 1 の第 6 欄に掲げる周辺監視区域外の濃度限度の適用を受ける